



04 12 12

オオタカ棲む里山の自然 いつまでも！

瓦版にゆうす

旧日本IBMグランド跡地対策協議会



NO.30 街頭特別号

緑豊かな町田をマンション業者が「町壊し」！

玉川学園地区 長谷工 行政指導に従わず強行着工へ

企業の厚生施設跡地に巨大計画

588世帯2000人増の人口爆発計画

町田市環境マスタープランほか全て無視

戸建て住宅が建ち並ぶ玉川学園地区。その中にあった野球場やプールを備えた企業の総合運動場が突然売りに出されました。買ったのは長谷工コーポレーション。法の規制をかわすためか「1棟」に見せかけ、宅地と丘陵の調和の中に巨大な城壁を作る「町壊し」「自然破壊」の計画です。町田市の環境マスタープランや住みよい街づくり条例など様々な社会のルールに抵触する建築に周辺住民は町内会を挙げて反対しています。

大渋滞や教室増 市民負担甚大

工事車両 往復最大一日1000台 各街道は飽和

ハセコーは、市民に対し、説明責任を果たさぬまま傷害事件を起こしたり違法駐車を繰り返したりしながら工事を始めました。このまま工事が本格化すれば、1日1000台近い工事関係車両の往復で成瀬、町田、鎌倉街道や、生活道路には2年以上の慢性渋滞が起これと予想されます。また完成後は無計画のしわ寄せで地区の小中学校はパンクが必至です。市民の貴重な時間、税金がやり放題の企業の犠牲になってしまいます。

現場で戦い、法廷でも闘う

これ以上、市民が企業にナメられるわけにはいかない!

今、近隣住民はハセコーに対し、徹底抗戦をしています。これは、町田市小川や関東各地で起きたハセコーマンション紛争などの教訓から、この手の業者が結びたがる協定には、市民全体の利益など何もないことが明らかだからです。未来の市民に「当時の大人はなぜこんな建物を許したのか?」と言われるわけにはいきません。毎朝3時の特殊車両進入から、子供たちの下校時刻5時過ぎまで安全監視活動を続けると同時に、建築確認の取り下げや、建築禁止の訴訟などへの手段で闘っています。

最近、緑豊かな薬師池公園周辺などでも周囲の環境にそぐわないマンション計画が起これ、住民に不安の日々を強いています。明日は我が身、細心の注意と強い闘う姿勢が必要です。

絶滅危惧種 オオタカの危機

環境省の指導も無視

この建築計画が表面化してすぐ、予定地周辺に「種の保存法」によって守られるべき猛禽類「オオタカ」の生息が指摘されました。ハセコーには国のガイドラインによって約2年間の生態調査を経て、オオタカを守りきれぬ建築計画を策定することが求められたのです。しかし、その後ハセコーは調査をせず、地元の自然保護団体の緻密な調査資料を受けた環境省や東京都、町田市の行政指導にも従う様子を見せていません。10月からは生態系を分断しオオタカの生息を脅かす計画のまま工事を始め、毎日騒音振動けたたましく重機を動かし、明らかな「オオタカ退治」を進めています。

元建設官僚率いるハセコー

近隣住民を威嚇し、オオタカも絶滅させんばかりに工事を強行するハセコー。そのトップの名は高聰久(だけ・としひさ)氏。東大(法)を出て建設省、同大臣官房を経て平成3年からハセコーの幹部に天下りその後社長に。建築行政を担う現国土交通省の都市・地域整備局長や住宅局長は官房時代の部下で、単なる情報交換以上のやりとりが行われている可能性を指摘する声もあります。オオタカについては、同省を通じ環境省へ圧力をかける関係まで構築されていることも考えられます。国民の血税をもって生き長らえた会社が、なりふりかまわず営利のみを追及する姿勢がなぜ許されているのか、注意深く監視していく必要があります。

ハセコーを隠れ蓑にする黒幕

建築主・東武鉄道株式会社よ!

ただの1度も説明に顔を出さない建築主たち

この計画で大きな利益をあげる企業の一つが建築主の東武鉄道。同社の環境理念には「地球環境保全を企業の使命と自覚し、地域社会の皆様とともに健やかに暮らし続けられるよう(中略)地球にやさしい社会づくりに向けて行動します。」とあります。そこに望みをかけ、オオタカ保全の要望を出しましたが、結果は「NO」。理念はまったくの飾り物でした。

私たちは日本中で起こっている非道な企業の「町壊し」と力を合わせて対峙していかねばならない時代を迎えています。

最新情報は対策協議会ホームページで!

<http://taisaku.holy.jp/>

ご意見は… taisaku@ee.holy.jp

事務局…042-725-0438